



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

### I-OWA マンスリー・セミナー講演より 「お金のデザイン」会社概要と運用サービスについて

講演： 広瀬 朋由氏  
レポーター： 赤堀 薫里

広瀬 朋由氏 株式会社 お金のデザイン 代表取締役社長/ファウンダー  
横浜国立大学 経済学部経済法学科卒業

1982 年に三井信託銀行(現三井住友信託銀行)株式会社に入社し、受託資産運用部にて内外株式/債券の運用統括責任者となる。1999 年に世界最大の資産運用会社パークレイズ・グローバル・インベスターズ株式会社に入社、営業統括本部営業企画部長として、営業企画、商品戦略、マーケティング、コンサルタント・リレーションズ全般を担当。2009 年ブラックロック・ジャパン(株)との合併後、営業部門 COO に就任。2013 年、株式会社「お金のデザイン」設立。  
外部委員として、厚生年金基金連合会基本方針細則検討会外部委員、東京証券取引所デリバティブ懇談会委員等歴任。

「お金のデザイン」は 2013 年に設立されました。我々のミッションは「One life, Enjoy the quest of realizing yourself」です。お客様はご自身の関心事に注力してもらい、我々は「お金」を通じて、1 人 1 人が自分らしく生きることが役割である。プロダクトとサービスの内容を THEO と名付けました。テオは、フィンセント・ファン・ゴッホの弟の名前。ゴッホの絵は、生存中一枚しか売れなかったのです。でも、弟のテオは兄の才能を信じ、金銭面でずっと支え続け、ゴッホには絵を描くことだけに集中してもらった。テオのように我々は皆様のお金を運用する役割でありたい。そういう思いがこもっています。

投資に対するサービスが一般的に高すぎる。投資信託の購入時、販売手数料が 4%、運用報酬手数料が 2.5% かかり、1,000 万円投資すると 1 年間で 65 万円が無くなるころからスタートとなることもあります。投資のプロである機関投資家と違い、個人投資家は運用の知識があまり無いため、情報に非対称性があります。これを利用した投信ビジネスは大きく歪んでいます。販売手数料 4% はコンサルティング料ではなく、難しい商品を販売する為のプロダクトにかかる時間的コストの請求であり、これをお客に請求するのは筋違いです。サービスに対する非対称性である対価をどう変革するか。これが我々の大きな課題でした。





## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

我々のビジョンは、科学と技術による資産形成によってお客様を金融的束縛から解放し、個人の資産形成の不安を取り除いていくことにあります。今までの運用会社の在り方は、大勢の営業マンが販売し、運用チームがあり、エンジニアがいる。我々の目指す所は、サービスについてネットで出来るところは全部ネットで行い、仕組みやユーザビリティの向上にエネルギーをかける。組織構造が従来の逆三角形から正三角形に変えていくことを目指しています。

フィンテックの運用の本質はクオンツ運用です。ベースにあるのはどのような投資理論に基づいてクオンツ化したのかという点にあり、それがフィンテックのコアの姿です。

ここ数年、日本の個人が抱える課題は、日本人が保有する資産の中で外貨建ては 2.5%程度と、円の比重が大きいことです。ここ3年間円安に進んだ中、資産価値保全という意味では、痛手を被ったのは個人であり、これは徐々にみなさんの中でも認識されつつあります。



我々の商品は円商品のみでなくグローバルなアセットです。日本人は日本の資産を持ちがちだが、そのようなポートフォリオではなく、当社では世界のウエイトと同じくらいか、それ以下しか日本資産を保有していない。つまり地球全体の金融資産、不動産等を同じウエイトで買っているのです。ある意味ユニバーサル・アセットとなっている。

日本のこれからの低成長、財政上の問題、それをきっかけとした円安、これらを踏まえた上で、グローバル投資は資産価値保全にベストであると考えています。実際に日本の GDP の実質成長率の予想は、今年で 1%、来年は 0.3%と低成長で、ここにいくら投資をしても世界が日本以上に成長すれば、資産は相対的に目減りしていくのです。世界の ETF に分散投資をすることで、世界の市場の成長に負けないということが資産保全であり、儲かったかどうかは問題ではない。地球全体の伸びにトラックできているのかが大切なことなのです。

テオは、10万円から1人1人プロファイリングによるカスタマイズ運用をしながら、グローバル分散投資ができます。ポートフォリオの特徴としては、世界の株式の成長に追随する「グロース・ポートフォリオ」、世界のインカムに連動する「インカム・ポートフォリオ」、国内の物価変動や輸入インフレをヘッジする「インフレ・ヘッジ・ポートフォリオ」。この3つの中でどれを一番重要視しているのかお



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

お客様ごとに問いかけポートフォリオを構築します。

その後、講演では、平均的なお客様の運用配分比率やパフォーマンスの紹介、長期資産運用における各市場との比較の解説がありました。11,000 銘柄以上ある海外 ETF から投資対象の ETF を選別し、リバランスやリアロケーション等、プロレベルの緻密な運用を行うことでお客様の投資目的に合った運用が可能であるとのことでした。